



印刷
発行
検定済

大臣が認可し官報で告示した定価
は、各教科書取扱所に表示します。

著者
(東京造形大学教授)
(岡山大学大学院教授)
(岡山大学大学院准教授)
(埼玉大学教授)
(滋賀大学教授)
(IPU・環太平洋大学教授)

(東京都東村山市立東村山第二中学校教諭)
(神奈川県川崎市立玉川中学校長)
(お茶の水女子大学附属中学校教諭)
(山梨県北杜市立明野中学校教頭)

(福島大学教授)
(京都造形芸術大学教授)
(岐阜大学准教授)
(茨城大学大学院教授)
(群馬大学准教授)

(群馬大学准教授)
(大阪教育大学教授)
(京都市立芸術大学准教授)
(岐阜大学教授)
(和歌山大学教授)

(兵庫教育大学理事・副学長)
(東京学芸大学附属竹早中学校教諭)
株式会社

(大阪教育大学名誉教授)
(明治学院大学教授)
(鹿児島大学名誉教授)

(熊本大学名誉教授)
(九州産業大学教授)
(山形大学名誉教授)
(新潟大学教授)

(宮崎大学名誉教授)
(愛知教育大学名誉教授)
(前奈良教育大学教授)
(元兵庫県神戸市立岩岡小学校長)

(信州大学名誉教授)
(岡山大学名誉教授)
(京都嵯峨芸術大学教授)
(西九州大学教授)
(大阪芸術大学非常勤講師)
(鳴門教育大学教授)

(公益財団法人名古屋文化振興事業団専務理事)



表紙

孔雀
[紙本彩色・額装 / 227×227cm]
1983 京都国立近代美術館蔵
上村松篁 [京都府・1902～2001]

松篁は6歳の時、鳥カゴから飛び出た文鳥が緑鮮やかな檻の中にある美しい光景に出会う。それが、花鳥の美に魅せられた最初の体験となった。70歳になってから描かれた『孔雀』は、右側をトリミングしたことで動きが出るとともに、羽根が震わされているようにも見える。孔雀を飼い、その生態を身近で見ていた松篁だからこそ描くことのできた作品である。

校閲者

特別支援教育・
カラーユニバーサルデザインに関する校閲
大内 進 (国立特別支援教育総合研究所客員研究員)

防災・安全教育に関する校閲

片田敏孝 (群馬大学大学院教授)
河田恵昭 (関西大学教授)

小・中学校連携に関する校閲

水島尚喜 (聖心女子大学教授)
西尾正寛 (畿央大学教授)
永井和貴 (東京都渋谷区立小中一貫教育校
渋谷本町学園 小学校教諭)

発行者

日本文教出版株式会社
大阪市住吉区南住吉 4-7-5
代表者 佐々木秀樹

印刷者

西口印刷株式会社
大阪市住之江区北加賀屋 1-3-9
代表者 西口平輔

製版者

株式会社 あいぼくす
大阪市東成区東今里 2-6-18
代表者 大西健彦

表紙・本文デザイン

株式会社志岐デザイン事務所

資料提供・協力

青芳製作所、飛鳥園、アタチ伝統木版画技術保存財団、アートフロントギャラリー、アフロ、イカロス、伊藤石材店、岩波書店、内山弘隆、大関雄次郎、オフィス・ルカス、角川書店、アイテック、メトロポリタンギャラリー、川端道喜、教育美術振興会、銀座夏野、クネットイースト、講談社、交通エコロジー・モビリティ財団、国文学研究資料館、西大寺フォト、サエラ、ジーケージャパンエージェンシー、集英社少年ジャンプ編集部、小学館グッサン編集部、小学館少年サンデー編集部、小学館スピリッツ編集部、昭和製陶、白石コンテンポラリーアート、新潮社、ズームティー、積水樹脂、全国染色連合会、ダイソソ、辻倉、DNP アートコミュニケーションズ Image : TNM Image Archives、手塚プロダクション、東京タカラフーズ、東京文化財研究所、東大寺、東北博報堂、虎屋、ナゼロ、日本グラフィックデザイナー協会、ネイチャー・プロダクション、長谷川刃物、ハーマンミラー・ジャパン、PPS 通信社、プロダクター・アンド・ギャンブル・ジャパン、便利堂、武蔵野美術大学美術館、柳原茂光、柳正彦、ゆかい、遊茶、ユニフォトプレス、読売新聞社、リトルモア、六甲山観光、輪島正裕、ワールドフォトサービス

表紙・裏表紙 © Atsushi Uemura 2014 / JAA1400092

P.6 悪夢と白昼夢

http://www.heatherjansch.com/Adam Woolfitt

P.8 バルセロナの眺望

Richard Estes, courtesy Marlborough Gallery

P.24 日本の工芸品を眺める娘たち

Image courtesy of the Art Renewal Center® www.artrenewal.org

P.32 名探偵コナン ©青山剛昌/小学館

P.32 ビンポン ©松本大洋/小学館

P.33 バクマン ©大場つぐみ・小畑健/集英社

P.33 鳥獣人物戯画巻 写真提供: 東京国立博物館

Image: TNM Image Archives

P.33 ジャングル大帝 ©手塚プロダクション

P.33 W3 ©手塚プロダクション

P.33 MIX ©あだち充/小学館 グッサン

P.34 漆絵梅文腕 Photo: MOMAT/DNP artcom

P.52 火の鳥「黎明編」©手塚プロダクション



自分のマーク

組	番	名前
組	番	

日本文教出版株式会社 東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井 1-2-16 電話 (03)3389-4611
大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5 電話 (06)6692-1261

本書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。

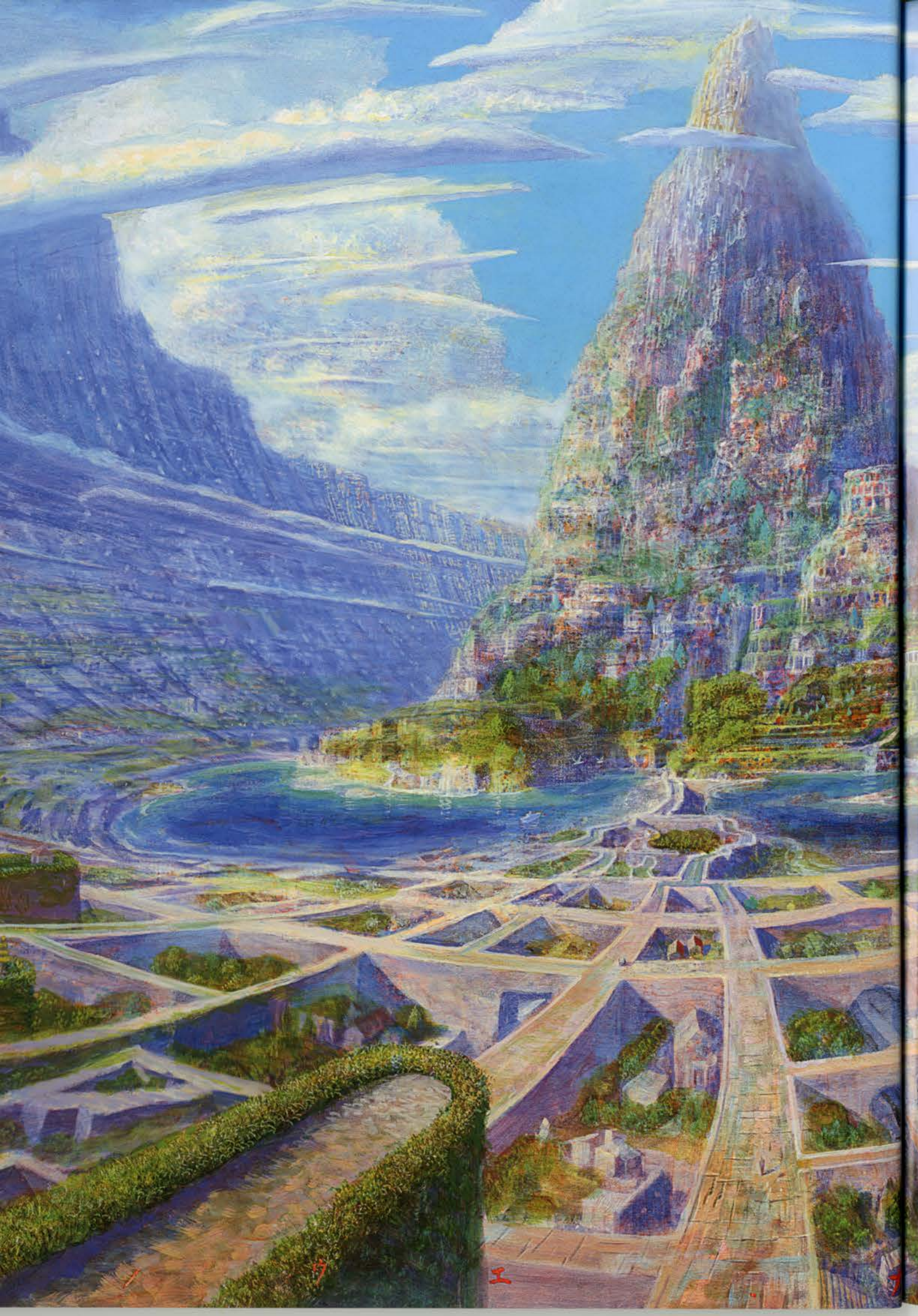
※本書に基づく解説書・自習書・ワークブックおよびこれらに類するものの無断発行を禁ずる。
※この教科書は植物油インキと再生紙を使用しています。
※折込の和紙は機械抄きです。

美術 2・3上

学びの深まり



日本文教出版



美術2・3上 [目次]

学びの深まり



しぐさで語る動物たち ▶ 10・11



心でとらえたイメージ ▶ 16・17



情報をわかりやすく伝えよう ▶ 38・39



豊かなイメージで伝えよう ▶ 40・41



手づくりを味わう喜び ▶ 46・47

マークについて

使用されているマークの意味や内容を知り、学習に生かしましょう。

学びのねらい

題材ごとに「学びのねらい」を示しています。美術の授業を通して多くのことを学んでいきましょう。

- 関心・意欲・態度に関するねらい
- 発想や構想に関するねらい
- 創造的な技能に関するねらい
- 鑑賞に関するねらい

POINT 学習内容のポイントを題材ごとに示しています。

注意しよう! 作品をつくる上での安全に関する注意点を示しています。

参照 学習と関連する内容が掲載されているページを示しています。

道徳 道徳の学習と関連する内容を示しています。

注意しよう! 美術作品や写真などの創作物には、不正な複製などを禁じ、作者の権利を守る著作権が定められています。作品の図版などを利用する際は注意が必要です。

オリエンテーション

- 学びを深めよう 2~4
- 表現の可能性を求めて 6・7

絵や彫刻など

- 新鮮な視点でとらえよう 8・9
- しぐさで語る動物たち 10・11
- 響き合う言葉と絵 12・13
- 瞬間の美しさを形に 14・15
- 心でとらえたイメージ 16・17
- ▲ 名画の魅力に迫る 18・19
- ▲ 光が生むリアルとドラマ 20・21
- 墨が生み出す豊かな世界 22・23
- ▲ 教科書美術館 東へ、西へ 24~31
- ▲ 漫画表現の豊かさ 32・33

デザインや工芸など

- 日本の美意識 34~37
- 情報をわかりやすく伝えよう 38・39
- 豊かなイメージで伝えよう 40・41
- やさしさのデザイン 42・43
- ▲ 座ることから考える 44・45
- 手づくりを味わう喜び 46・47

学習に役立つ資料

- まちを彩るパブリックアート 48・49
- 日本美術の展開と世界との交流 50~52
- 現代に受けつがれる浮世絵版画 53・54
- 水墨画の技法 53
- 粘土でつくる 54
- 木でつくる 55
- 金属でつくる 55
- 色について理解を深めよう
- 配色 56
- 日本の伝統色 57

- = 表現する活動を主にした内容
- ▲ = 鑑賞する活動を主にした内容
- = オリエンテーションと学習に役立つ資料



P.2~3掲載:
塔の入り江
[ミクストメディア・
キャンヴァス/80.3×100cm]
2009
井上直久[大阪府・1948~]



中庭の宙 [プラスチック製洗濯ばさみ /
100×200×62cm] 2012
タン・ルイ [マレーシア・1973～]
大きさも色もさまざまな洗濯ばさみを組み合わせ、
生き物にも見える抽象的な形を表現している。

表現の可能性を求めて

美術表現に用いる材料は、特別に用意されたものばかりではありません。毎日の生活で目にするさまざまな人工物や自然物。その美しさや特性から発想してそれらを用い、表現することがあります。

材料の特性を生かした表現がある一方、材料の特性を生かしながらも意外性を演出した作品もあります。

自分のイメージを表すために、どのような材料をどのように工夫すればよいのでしょうか。材料や方法から、表現の可能性を追求しましょう。



コーヒーブレイク [石・ファスナー・身辺材料 /
9×13×8cm] 2011
伊藤博敏 [長野県・1958～]
どこにでもある硬そうな石を加工し、見る
人に布のようなやわらかな印象を与える。
質感の意外性を楽しく表現している。



悪夢と白屋夢
[木 / 長さ最大 270cm]
ヘザー・ヤンシュ [イギリス・1948～]
撮影・アダム・ウールフィット
流木を組み合わせ、実寸で制作され
た馬の彫刻。特徴をとらえた自然な
形体からは、生きているかのような
雰囲気を感じられる。



不動明王および二童子立像
[木 / 不動明王：高さ 88.5cm、
二童子左：高さ 37.5cm、
同右：高さ 35.6cm]
17世紀後半 清龍寺蔵 [栃木県]
円空 [1632～95]

不動明王は、木材の節や木目など材料
が持つ表情を生かした造形が特徴的な
作品である。不動明王が背負う炎を、割
れたような木面で大胆に表現している。



新鮮な視点で とらえよう

風景をいろいろな見方で表そう

学びのねらい

- 身近な場所をいつもとは違う視点で見ることに関心を持つ。
- 見方を変えることで得られる新鮮な感動から主題を生み出し、省略や強調、変形などによる効果を考へて、表現の構想を練ろう。
- 表現意図に合う画面の構成、視点の組み合わせ、コラージュなど、表現方法を工夫して表そう。
- 新鮮な視点で表現された作品のよさや美しさを味わおう。



バルセロナの眺望 [油彩・キャンヴァス / 101.6×223.5cm] 1988
リチャード・エステス [アメリカ・1932~]

別々の位置で撮影した写真をもとに、正面に見える塔や人と、見下ろした街並みなど、違う視点からの光景を組み合わせると一つの画面に描いている。

「名所江戸百景」より 水道橋駿河台
[多版多色木版・紙 / 36×24.4cm]

1857
歌川広重 [1797~1858]
大きく描かれたこのぼりと、小さく見下ろすように描かれた風景との対比で、遠近感が強調されている。



平戸島のトノサマバッタが
海と対岸の陸地をみつめていた
[写真 / サイズ可変] 2001 栗林慧 [長崎県・1939~]
虫の目の高さで撮影し、まるで虫が見ているのと同じ風景をとらえているように感じられる。

POINT

風景をとらえる角度を工夫したり、手前と奥を対比させたりして、作品の構図を考えましょう。



同じバスケットゴールでも、見上げる時と見下ろす時で奥行きや明暗などの印象が違う。表したいことを効果的に表す構図を考えよう。



ブルックリン橋、
1982年11月28日
[コラージュ・写真 / 109×57.9cm] 1982
デイヴィッド・ホックニー
[イギリス・1937~]
視点の違う複数の写真をつなげて、足元と橋の向こうを同じ画面に収めている。実際には見ることのできない空間を表している。

生徒作品
自転車を除く
[アクリル・紙 / 53.8×38cm]

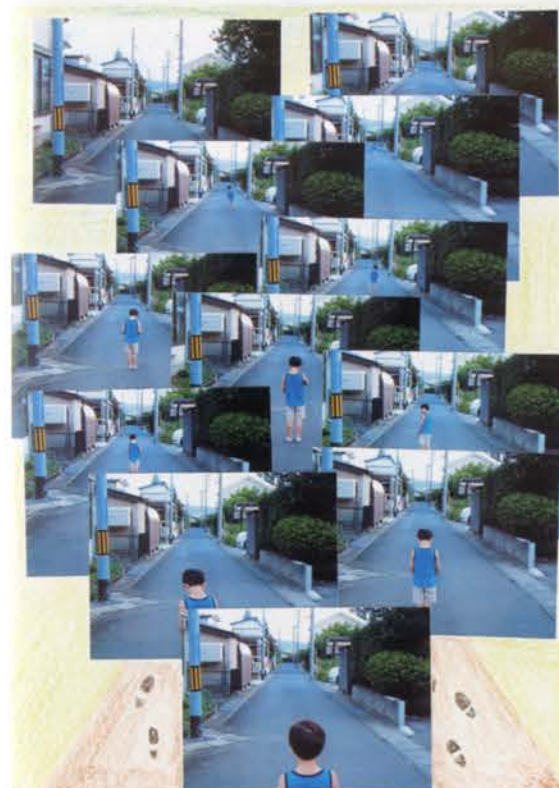


生徒作品 時の流れ [アクリル・紙 / 27×38.8cm]
魚眼レンズでとらえたかのように、中心にあるもの以外をゆがませて描いている。

生徒作品

帰り道
[コラージュ・写真・色鉛筆・紙 / 38×27cm]

作者の言葉 いつもの帰り道を歩く弟を撮りました。1枚だけ振り返っている写真にして、並べ方も工夫しました。



生徒作品 ある風景 [アクリル・紙 / 38×54cm]
柵越しに見える風景を、手前と奥の対比を際立たせて描いている。

響き合う 言葉と絵

書くと描く

私たちは感じ取ったことや自分の気持ちを、言葉にして表すことができます。そして言葉の意味だけではなく、文字の形や色もさまざまな印象を引き起こします。言葉を絵などと重ね合わせて、新しいイメージを生み出しましょう。好きな言葉から発想を広げたり、絵を描きながら言葉で伝えたいことを考えたりしたら、文字の形や色も工夫して、あなたの気持ちを表現しましょう。

POINT

言葉の意味や絵に込める思いに合わせて、文字の表現の仕方や配置を工夫しましょう。

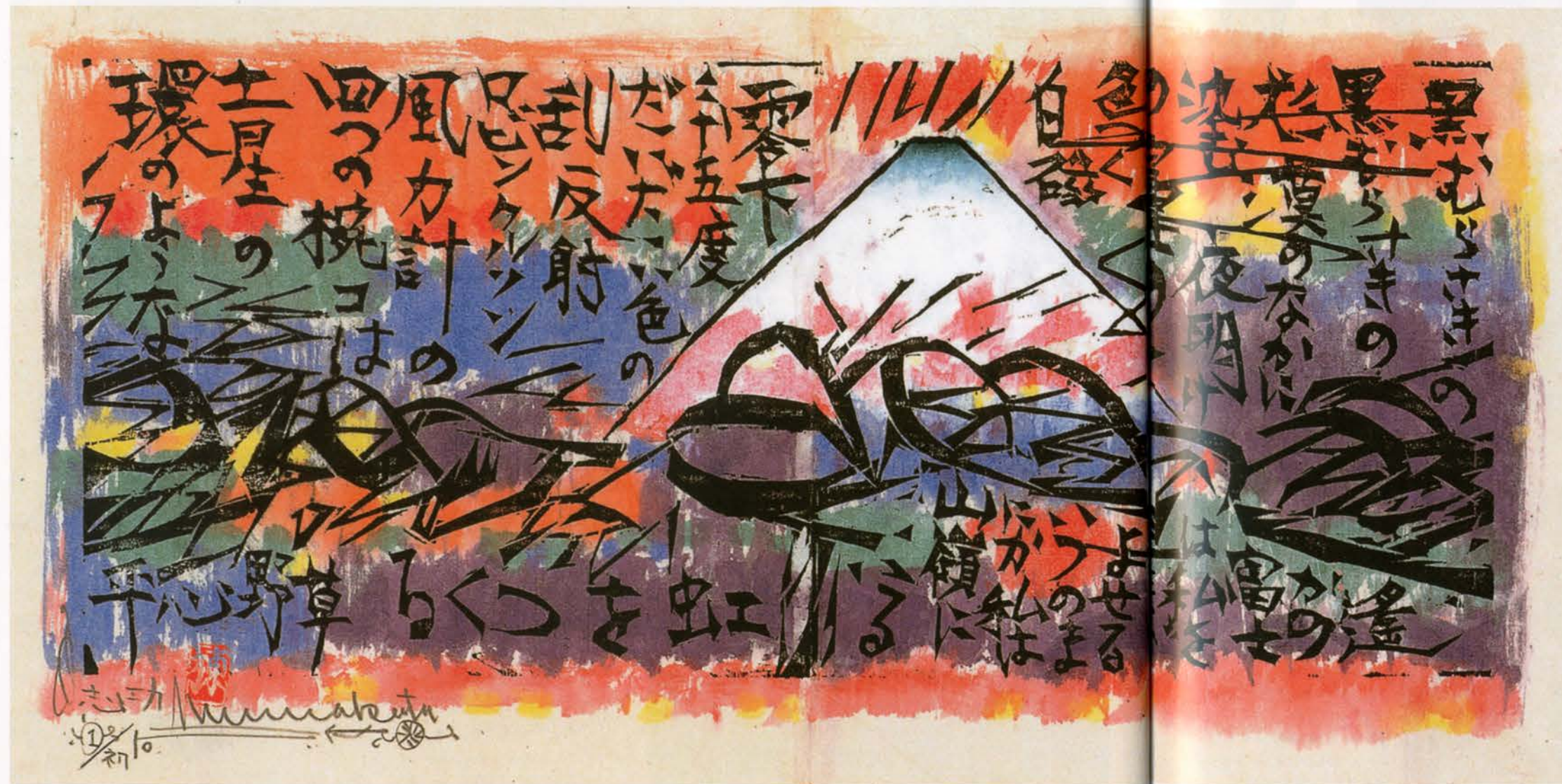
学びのねらい

- 言葉と絵を響き合わせる表現活動に関心を持つ。
- 言葉の意味やイメージをもとに表したい主題を明確にし、表現の構想を練る。
- 主題に合わせて、描く対象と言葉の組み合わせや文字の形や色、配置の仕方を工夫しよう。
- 作品に託された思いや意図を味わい、よさや美しさについて話し合おう。



生徒作品
満開の笑顔

[墨・水彩・和紙/31.5×42.5cm]
満開の花に笑顔を重ねて見た作者の温かな気持ちが、たっぷりの墨でおおらかに表された文字から伝わってくる。



「富嶽頌」より
『黒むらさきの』の幅
[木版・彩色/29×62.7cm]1965
棟方志功記念館蔵[青森県]
棟方志功[青森県・1903~75]
棟方志功は、詩人の草野心平が富士山をテーマにつくった18篇の詩から発想して、「富嶽頌」の連作版画に取り組んだ。詩の表す情景や力強い印象を、鮮やかな色と画面いっぱいの文字で表している。



Sunny
[ソフトグランドエッチング・グワッシュ/30×20cm]2006
山本容子[埼玉県・1952~]

兄への感謝を歌った曲をもとにしている。音符と一体になった動物の絵の下に文字があり、楽譜のように表現している。

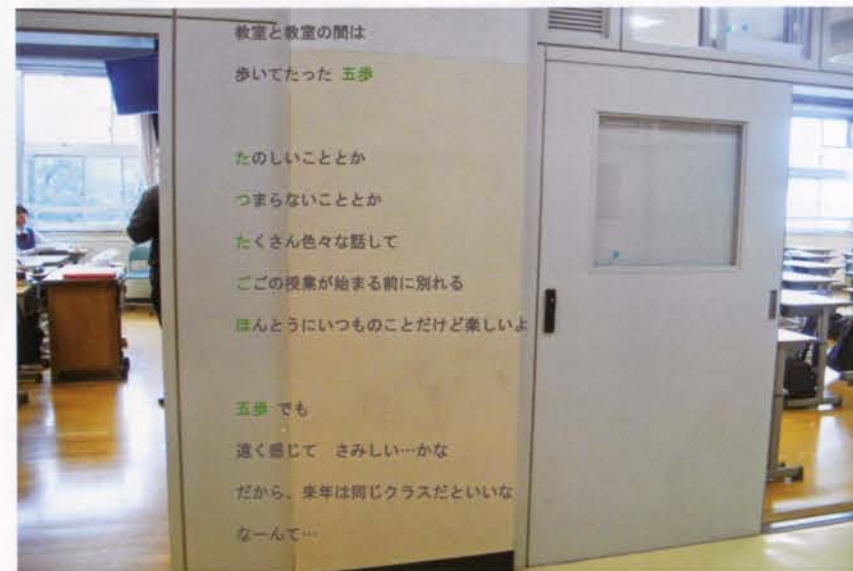
前にすすむんだ
二月十日にじんが来た
ぐらぐらとらわっていた
机の下にかくれても
なにかがこぼれまわって
たけしに前をすすまわって
人間の足で歩かなくて
床にガムテープを貼って
おぼろげにのぞいて
はがしたテープの跡が
だかだかに前をすす
すすすす
人間の足で歩かなくて



生徒作品 前にすすむんだ[水彩・ボール紙・紙/54×38cm]
独自の形に統一された、文字の表現に工夫が見られる。



写真を使った表現に取り組んだ。校内で撮影した写真の中から、テーマに合うものを選ぶ。選んだ写真をコンピュータに取り込み、文章を入れて作品にする。



生徒作品 たつた五歩[写真・コンピュータ/21×29.7cm]
教室の間の壁を背景に、色の違う文字をつなげるとタイトルになるという工夫をして、となりの教室との距離というテーマを表している。

瞬間の 美しさを形に

躍動感を表そう

人が生き生きと活動する姿には、躍動感や緊張感、美しさや楽しさなど、感動や驚きを生む瞬間があります。今まさに動き出そうと力を「ためる」姿、エネルギーを一気に放出しようとして体を「のぼす」瞬間など、あなたの心をひきつける瞬間を、目にしたことや体験の中から探し出してみましょう。そしてその感動を、生き生きとした人物の姿で表しましょう。

POINT

関節に注意して、心棒のつくり方を工夫しましょう。

参照

粘土を使った人物のつくり方についてはP.54「粘土でつくる」も見てみよう。

学びのねらい

- 🍷 美しいと感じる動きの瞬間を表すことに関心を持つよう。
- 🏠 躍動感が伝わるように表現の構想を練ろう。
- 🔧 材料や用具の特徴を生かして、関節や筋肉の動きの表し方を工夫しよう。
- 👤 自分の体験や気持ちを交えながら、動きの表現の工夫を感じ取ろう。



生徒作品

飛躍

[彩色・加工粘土 / 31×30×30cm]

作者の言葉 私の好きなハンドボールで、ジャンプシュートをするところを表しました。体を浮かせて、躍動感あふれる作品に仕上げられました。

弓をひくヘラクレス

[ブロンズ / 250×240×90cm] 1909
エミール=アントワーヌ・ブールデル
[フランス・1861～1929]



立体作品は見る角度によって印象が変わる。ベルニーニは、どの角度から見ても動きを感じさせるように作品をつくっている。回りを移動しながら見ると、動きの連続性が感じられ、像が動いているかのような印象まで受ける。

ダヴィデ [大理石 / 高さ170cm]
1623～24ころ
ボルゲーゼ美術館蔵 [イタリア]
ジャン・ロレンツォ・ベルニーニ
[イタリア・1598～1680]



生徒作品

音速を超えてゆけ!!

[彩色・加工粘土・針金・紙・板 / 25×22×30cm]

作者の言葉 大会でスマッシュしたところを、コマ送りで表して、動きをリアルに見せました。シャトルを大きくして迫ってくる感じを出しました。



友だちに協力してもらい、表したい動きをスケッチして構想を練ろう。



生徒作品

届け! 音楽の力!

[針金・ワイヤーネット / 27×18×12cm]



生徒作品

アタッカーにあげる!

[彩色・加工粘土・針金 / 21×12.5×11cm]

重心を低く構えた時の関節やかかどが、針金を心棒にして表されている。



生徒作品

雨にも負けず風にも負けず

[彩色・加工粘土・毛糸・身辺材料 / 24×24×19cm]

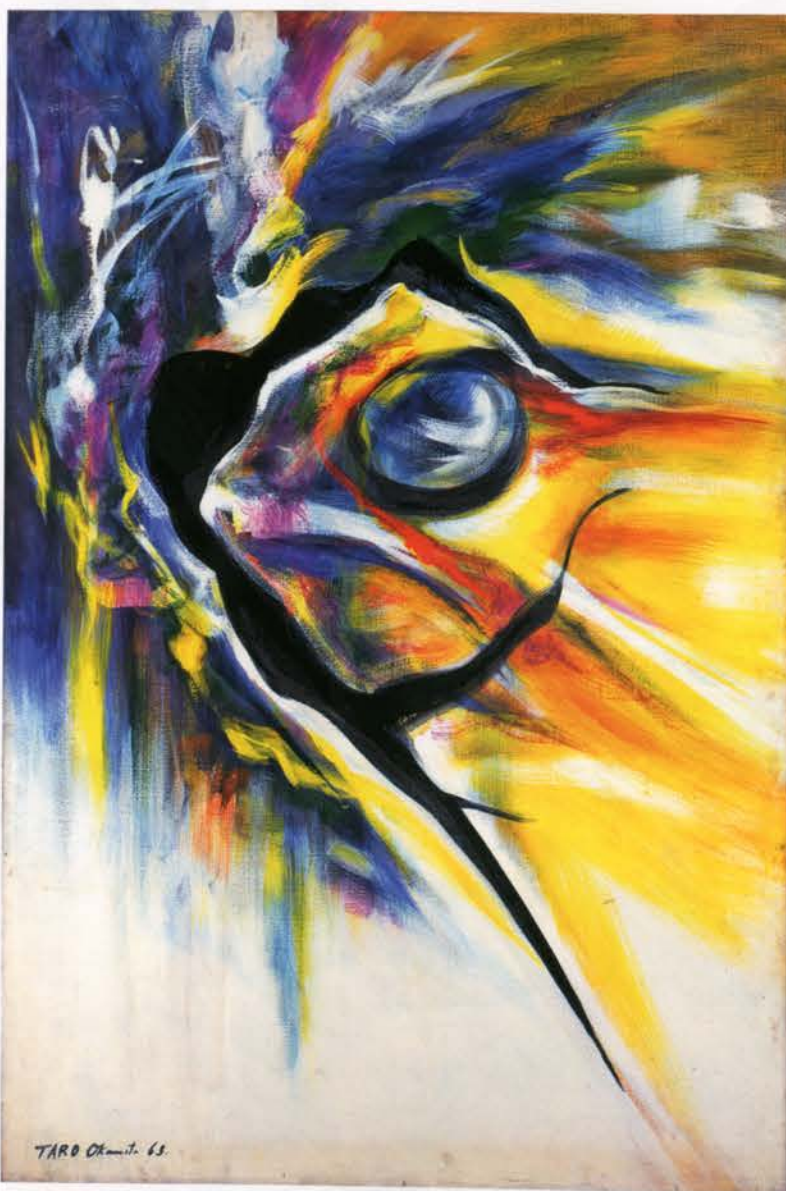
前のめりの体と後ろに反った体との動きの違いをよくとらえて表している。

心でとらえた イメージ

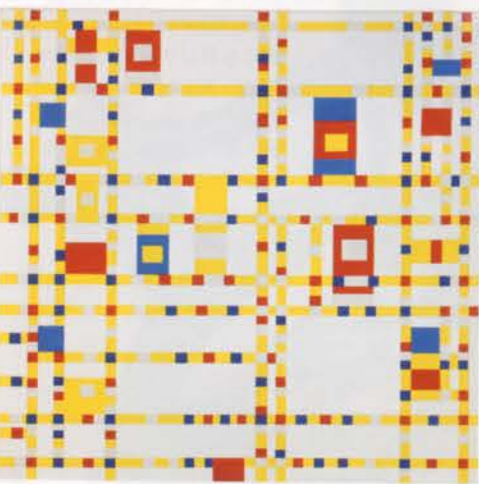
印象や感情を形や色で表そう

学びのねらい

- 👉 心でとらえたイメージを、形や色で表現することに関心を持とう。
- 👉 イメージをもとに、形や色を単純化や強調するなどして構成を工夫しよう。
- 👉 材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫して表そう。
- 👉 イメージをどのように形や色で表現しているか、作者の工夫を感じ取るう。



跳ぶ
[油彩・キャンバス/
193.5×130 cm]1963
川崎市岡本太郎美術館蔵
[神奈川県]
岡本太郎
[神奈川県・1911~96]
鮮やかな色と勢いのある
タッチから、跳躍の勢い
ある感じが伝わってくる。



ブロードウェイ・ブギウギ
[油彩・キャンバス/
127×127cm]1942~43
ニューヨーク近代美術館蔵
[アメリカ]
ピエト・モンドリアン
[オランダ・1872~1944]
ニューヨークの街のイメージを、
自らが好んだリズムカルな音楽
の形式に重ね合わせて、鮮やか
な色をリズムよく配色して表現
している。



生徒作品
自由に生きる[発泡スチロール・
加工粘土・アクリル/33.5×42×36cm]
作者の言葉 自由に曲げたりひねった
りくっつけたりして、そんな風に自由
に生きたいなと思ってつくりました。

「楽しい気持ち」や「春」などの心でとらえたイメージを、形や色で表すとどのような表現になるでしょうか。

丸い形やとがった形、ゆっくりと引かれた線や勢いのある線、赤い色や青い色、つるつるやざらざらの質感などは、私たちにさまざまな印象を与え、感情を呼び起こします。これらの形や色の効果を生かして、単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを工夫し、感情や季節、音などのイメージを、自分独自の発想や方法で表現しましょう。

アイデアスケッチから 発想を広げよう

心でとらえたイメージから思いつく形や色を、まずはメモのように描いてみましょう。そこから、形や色の組み合わせ、どんな材料を使うかを考えましょう。

POINT
表したいイメージをタイトルに込めて、形や色、線の強弱などの効果を生かして表現しましょう。

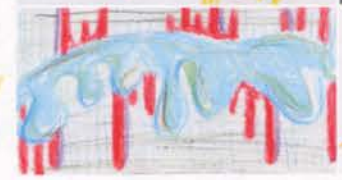
喜
ぱっかん



怒
ぐさっ



哀
でろでろ



楽
クルクル



生徒作品 アイデアスケッチ [色鉛筆・紙/各6×10cm]

心の動きの基本である「喜怒哀楽」を表した。それぞれの気持ちから連想する言葉もヒントにした。

生徒作品

気持ちのグラデーション
[コラージュ・アクリル・紙・ステレンボード/36.3×25.6cm]

作者の言葉 つらいことがあっても、それを乗り越えれば楽しいことがあるという変化を色のグラデーションで表しました。形もマイナスな気持ちはとげとげさせて、プラスな気持ちはふんわりさせました。



リズム 生きる喜び
[油彩・キャンバス/200×228cm]1930
パリ国立近代美術館蔵[フランス]
ロベール・ドロローネー[フランス・1885~1941]

ロベール・ドロローネーは具体的なものを描かず、形の繰り返しや色の組み合わせでイメージを表そうとした。喜びのイメージを、赤と緑をリズムカルに組み合わせて表現している。



生徒作品 海のイメージ
[コラージュ・スクラッチ・ドリッピング・アクリル・パステル・紙/38×53.7cm]

生徒作品

『禿山の一夜』を聞いて
[コラージュ・水彩・紙/54×39cm]

作者の言葉 曲から感じた暗くうずまく感じを、形がふぞろいの紙を連ねて表し、光が差し込む感じを長い紙を貼って表しました。



光が生む リアルとドラマ

光と陰影の効果をとらえて

絵を見る時、描かれた光の感じによって私たちが受ける印象はさまざまに変わります。光がつくる陰影によって、ものの立体感や質感などがリアルに感じられます。さらに、光の位置や向き、強弱などによって、劇的な感じや穏やか



聖マタイの召命 [油彩・キャンヴァス/322×340cm]1600 サン・ルイジ・デイ・フランチェージ聖堂蔵[イタリア]
ミケランジェロ・メリージ・ダ・カラヴァッジョ [イタリア・1571～1610]

学びのねらい

- ☑ 意図に合わせて工夫された、光の表現とその効果の違いについて関心を持つ。
- 📌 光と陰影の表現を工夫した作品を比較して鑑賞し、描かれた場面とのかかわりも考えて作者の意図を感じ取る。

な感じなど、受ける印象が変わります。表したい場面に合わせて、光と陰影の効果を生かすために、明暗や色彩、構図をどのように工夫したのか、考えましょう。

描かれた場面とのかかわりから

カラヴァッジョはキリスト教の聖書にある、キリストが弟子を指名する場面を、一直線に射す強い光を描いて表現しています。フェルメールは、当時のオランダの家庭の日常風景を表そうと、やわらかい光で全体を照らし、微妙な陰影をとらえたり、ひとときわ明るい部分を描いたりしています。こうした光の強さや向きなどの違いを画面の中でどのように工夫し、どのような効果を与えているか、作者の意図を描かれた場面とのかかわりから考えましょう。



水差しを持つ女 [油彩・キャンヴァス/45.7×40.6cm]1662ころ メトロポリタン美術館蔵[アメリカ]
ヨハネス・フェルメール [オランダ・1632～75]

POINT

それぞれの作品で、光が強く当たっているところに注目して、構図の工夫について考えましょう。

参照 光の表現については2・3下P.14～15「一瞬の光をとらえて」も見てみよう。

墨が生み出す豊かな世界

さまざまな墨の表現を学び、表そう

学びのねらい

- ☑ 墨と水と紙が生み出す豊かな世界に関心を持つ。
- 📌 墨の効果を生かした表現方法から発想を広げ、表したい内容について構想を深めよう。
- 🔵 濃淡やぼかしなどの水墨画の技法を学び、水や筆、用紙の特徴を生かした表現を工夫しよう。
- 📌 墨の表現の特徴を理解し、美しさやよさを味わおう。



墨は黒色ですが、水の量や紙の種類、筆の使い方によって濃淡、にじみ、かすれなど多彩な表現を生み出すことができます。墨の性質や技法の特徴に触れながら、イメージを広げましょう。さらに、表したい主題に合わせて、用具を工夫したり、技法を組み合わせて表現を楽しみましょう。

雲龍図[墨・板/直径120cm]1657
妙心寺蔵[京都府]
狩野探幽[1602~74]
天井に描かれており、龍の形体や表情は線で、雲は墨の濃淡やぼかしの技法を生かして、迫力いっぱいに描かれている。

POINT

それぞれの作品で生かされている墨の性質や筆の使い方、技法を見つけ、表現の参考にしましょう。

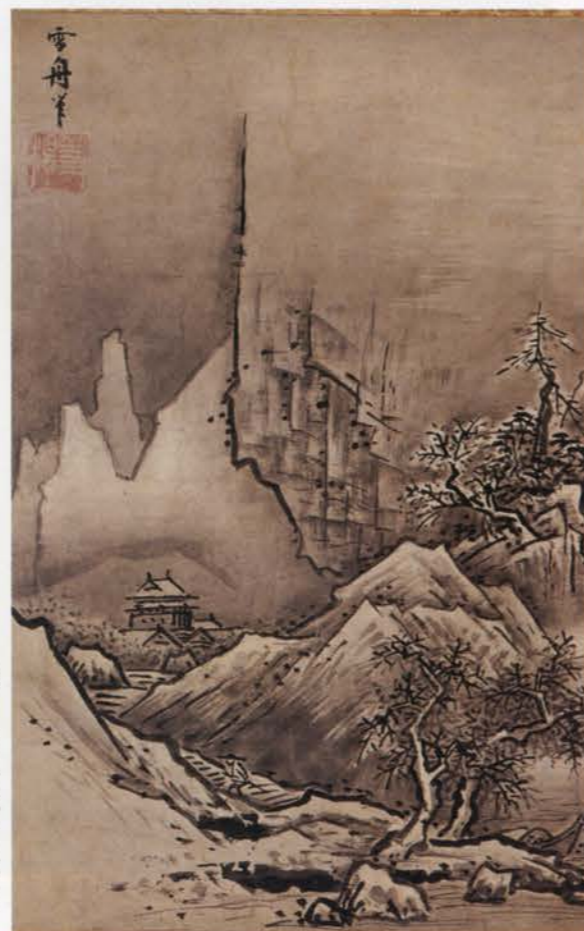
蛇に双鶏図[紙本墨画/36.9×52.6cm]江戸時代中期
細見美術館蔵[京都府] 伊藤若冲[1716~1800]
線で輪郭を描く部分もあれば、尾は輪郭線を描かず形をとらえたり、淡墨で羽毛の感じを出したりと、さまざまな技法を生かしている。



参照

水墨画の技法についてはP.53「水墨画の技法」も見てみよう。

秋冬山水図・冬景図
(国宝・二幅のうち一幅)
[紙本墨画/47.8×30.2cm]
15世紀後半
東京国立博物館蔵
雪舟等楊[1420~1506]
強い輪郭線で描かれた岩の重なりが、奥行きのある空間をつくり出している。



墨からイメージを広げて

水の量や筆の動かし方、線の勢いなどをいろいろ試しながら、表したいものを考え、構想を練りましょう。



にじまない加工を施した紙の上の水滴に墨を混ぜる。水滴がはじけて墨がさまざまな形で広がる。



筆の穂先を崩して描いてみる。



線の太さや筆の動かし方をさまざまに試してみる。

生徒作品

森に住む原人たち[墨・和紙/24×80.6cm]

作者の言葉 遠近感を墨の色で工夫しました。原人は森にとけ込ませるため、湿り気を与え、樹木はかすれの技法を取り入れて描きました。



生徒作品

鯉の音色
[墨・色紙/24.2×27.2cm]

作者の言葉 鯉が尾びれで水面をたたきつけるのをイメージしたので、鯉が体全体を勢いよく曲げている状態を思い浮かべながら、線なども意識するようにしました。



生徒作品

「男」という漢字からの表現[墨・コンテ・和紙/53×38cm]

作者の言葉 漢字からイメージした力強さや堂々としたところ、そして魂などを表現してみました。



生徒作品 自分の心の中にある龍[墨・紙/53.6×65cm]



源平合戦図屏風
一の谷・屋島合戦図
[紙本金地着色・六曲一双・左隻
/154.5×351cm]
江戸時代前期
神戸市立博物館蔵[兵庫県]
狩野吉信[1552～1640]



日本の工芸品を眺める娘たち [油彩・キャンヴァス/61×48.3cm] 1870ころ
ジェームズ・ティソ[フランス・1836～1902]

屏風は折り曲げることで自立させる仕組みの間仕切りである。室内を飾る装飾として絵が描かれ、折り曲げた時に絵に奥行きや空間の感じが生まれるようになっている。ティソは立てた状態の屏風を熱心に見る二人の女性を描き、当時のヨーロッパの人がいかに日本の美術に興味を持っていたかを伝えてくれる。

教科書美術館

東へ、西へ…

美術がつなぐ人と文化

19世紀後半、日本の開国をきっかけに屏風絵や浮世絵といった日本の美術が大量にヨーロッパに渡りました。珍しさから人々の関心を集め、さらに金箔や浮世絵の色彩、大胆な構図などに多くの芸術家が刺激を受け、ジャポニスムやアール・ヌーヴォーといった新しい美術が生まれるのに影響を与えました。

一方、日本にもヨーロッパ美術が伝わり、その表現が取り入れられました。東西でそれぞれの美術のよさが学び合われた理由について、考えましょう。



「名所江戸百景」より 亀戸梅屋舗
[多版多色木版・紙/36×24.4cm] 1857
江戸東京博物館蔵[東京都] 歌川広重[1797～1858]

ゴッホは浮世絵を収集し、油彩で模写した。この浮世絵の、木が横切る大胆な構図や遠近の極端な対比は、当時のヨーロッパでは見られない表現だった。



日本趣味・梅の花(広重による) [油彩・キャンヴァス/55×46cm] 1887
ファン・ゴッホ国立美術館蔵[オランダ]
フィンセント・ファン・ゴッホ[オランダ・1853～90]

学びのねらい

- なぜ、この時代に日本の美術が西洋の美術に影響を与えたのか関心を持とう。
- 日本や西洋の美術それぞれのよさや美しさを感じ取り味わいながら、美術文化の理解を深めよう。

浮世絵とヨーロッパの美術

江戸時代に盛んになった浮世絵版画は、大胆な構図、深みのある刷り色などが特徴です。当時のヨーロッパの芸術家が影響された表現について、模写や描く対象の引用、そして原寸大の浮世絵の迫力を味わいながら考えましょう。



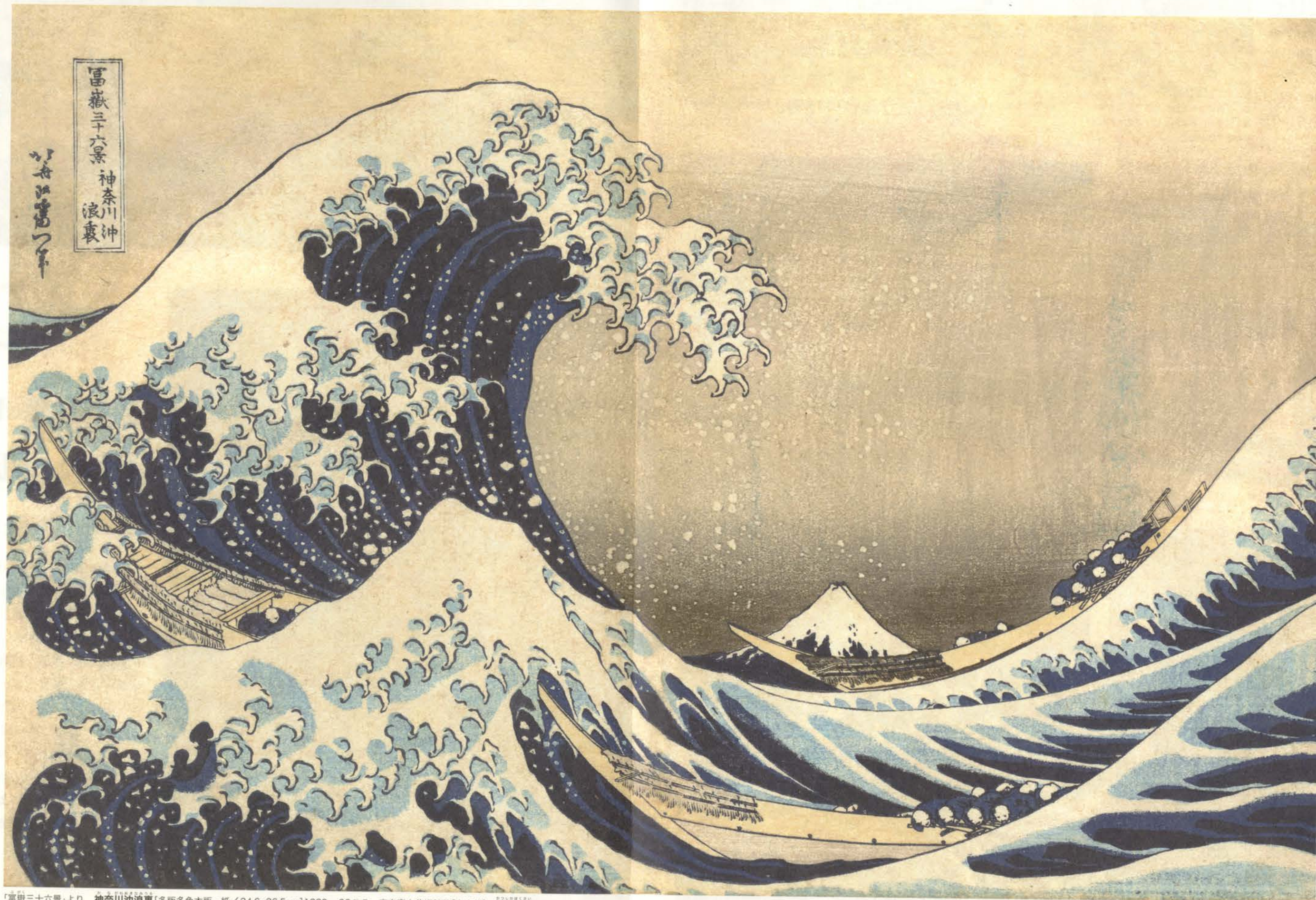
「北斎漫画」13編より 「魚籠観世音」図
[木版摺/32×23cm] 1849 日本浮世絵博物館蔵[長野県]
葛飾北斎[1760～1849]



鯉文花器
[エナメル彩色・ガラス/
高さ28.5cm] 1878ころ
北海道立近代美術館蔵
エミール・ガレ
[フランス・1846～1904]
ヨーロッパでは魚や虫などの小動物を描くことが少なく、身近な自然を写生的にとらえる日本美術が新鮮に写った。ガレはそのようなモチーフをガラス工芸に取り入れ、美しい彩色や装飾を施した。

原寸大

浮世絵は江戸時代に盛んになった絵画様式で、木版画の方法によって大量に印刷、販売された。和紙に、大胆な構図や明快な表現で多色刷りされた美しい木版画は、ヨーロッパの美術に影響を与えた。(ここでは、2点の作品を和紙を用い原寸大で示している)



「富嶽三十六景」より 神奈川沖浪裏 [多版多色木版・紙 / 24.6×36.5cm] 1830~32ころ 東京富士美術館蔵 [東京都] 葛飾北斎 [1760~1849]
大きくせり上がる波の荒々しい「動」と、遠くに見える富士の「静」。手前の波の大きな三角形と遠くの富士の小さな三角形が遠近の対比となり、画面に動きや奥行きを与えている。視線が自然な流れで富士に導かれるように考えられた構図である。

参照 浮世絵についてはP.53~54「現代に受けつがれる浮世絵版画」も見てみよう。

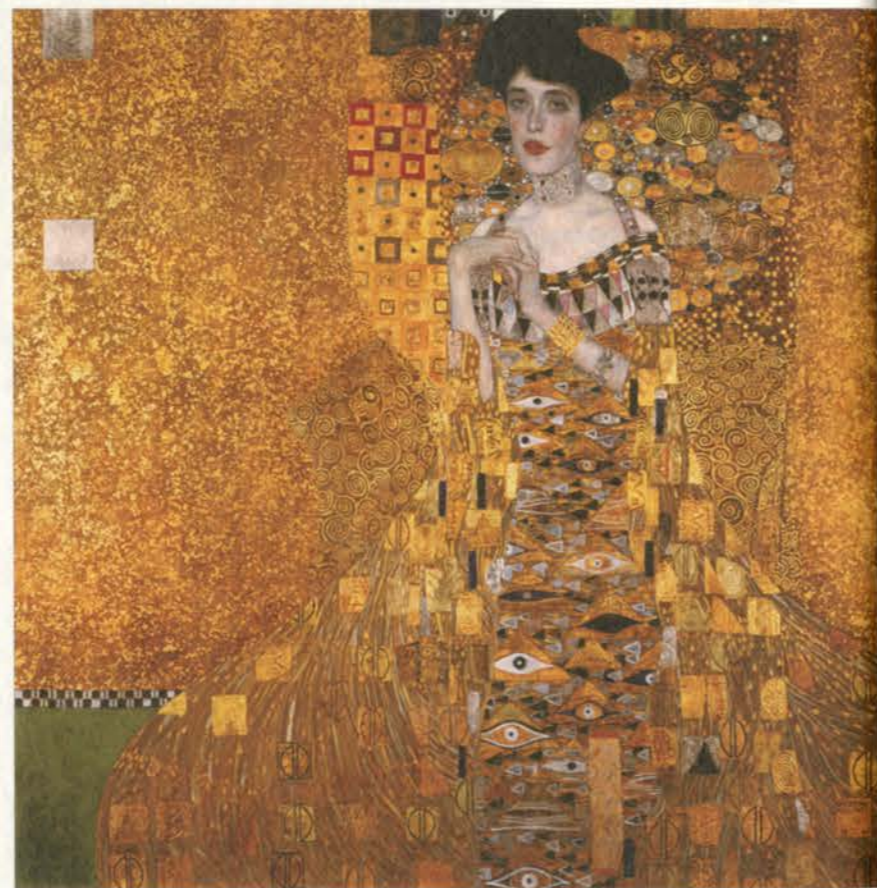


富士三十六景
凱風快晴

「富士三十六景」より 凱風快晴 [多版多色木版・紙 / 25.7×37.5cm] 1831以降 東京国立博物館蔵 葛飾北斎
白い雲が広がる青い空を背景に、朝日に照らされ刻々と表情を変えていく富士が、簡素で明快な色彩や構図で描かれている。刀の特徴を生かした彫りや、刷毛ぼかしという刷りの技法を用いるなど、当時の木版画の技法を駆使し神秘的で雄大な富士が表現されている。



紅白梅図屏風(国宝)[紙本金地着色・二曲一双/各156x172.2cm]18世紀初期 MOA美術館蔵[静岡県] 尾形光琳[1658~1716]
尾形光琳らは、装飾性に富む画風を特徴とした作品を描いた。彼らは、光琳の名を由来とし「琳派」と呼ばれている。



アデーレ・ブロッホ=パウアーの肖像I [油彩・金箔・キャンバス/138x138cm]1907
ノイエ・ギャラリー蔵[アメリカ]
グスタフ・クリムト[オーストリア・1862~1918]
グスタフ・クリムトの金を全面に用いた表現は、日本の屏風絵などを思い起こさせる。また、「紅白梅図屏風」に描かれた流水文を思わせる渦巻き模様など、日本美術の装飾的な表現の影響が強く感じられる。

ストックホルムのフリーズ 生命の樹
[テンペラ・厚紙/197x91cm]1905~09 オーストリア工芸美術館蔵
グスタフ・クリムト

影響から独自の表現へ

ヨーロッパでは、日本美術の模写などにとどまらず、表現方法を自分なりに取り入れる画家が出てきます。金や幾何学模様を生かしたクリムト、浮世絵にも通じる、縦長の構図に人物を大きく配したポスターを描いたミュシャはその例です。

一方日本では、幕末(19世紀後半)から油彩画の研究が本格的になり、明治時代には、油絵の具の特徴を生かした写実的な表現に多くの画家が取り組みました。



ジスモンダ
[カラーリトグラフ/213x75cm]1894
パリ装飾美術館蔵[フランス]
アルフォン・ミュシャ
[チェコ・1860~1939]



更衣美人図(重要文化財)
[絹本着色/117.2x53.4cm]江戸時代後期
出光美術館蔵[東京都]
喜多川歌麿[1753~1806]



鮭(重要文化財)
[油彩・紙/140x46.5cm]1877ころ
東京藝術大学大学美術館蔵
高橋由一[栃木県・1828~94]
高橋由一は、鮭など日本でなじみのあるものをモチーフに、質感をとらえた写実的な表現を切り開いていった。

茶器に見る 東西の美術文化

中国に起源が見られる茶を嗜む習慣とともに、陶磁器の文化も東西に広がりました。中国景德鎮の青華と言われる染付磁器の技術や意匠の影響は、日本の清水焼やドイツのマイセンなどに見ることができます。



景德鎮の染付茶器[中国]



京焼・清水焼の染付汲み出し茶碗
[日本]



マイセンのティーカップ・ソーサー[ドイツ]

日本の美意識

自然の形体や材料を生かして

学びのねらい

- 工芸品に生かされている自然の美しさや季節の彩りなど、造形的な工夫に関心を持つ。
- 生活に息づく日本の伝統的な形や色、材料などから発想を広げよう。
- 表現したい内容に合った材料や用具を選び、使い方を工夫して表そう。
- 日本の伝統的な材料や生活に息づく美術の働きについて話し合い、見方や感じ方を広げよう。



鶴(左)と亀(右)をかたどった水引

薄浅葱縮緬地杜若
八橋模様染織小袖
江戸時代後期
[刺繍・染色・糸・布/身丈174.5×裄63cm]
国立歴史民俗博物館蔵[千葉県]
日本の古典文学「伊勢物語」の一場面から着想した装飾を用いた着物。美しく彩られたカキツバタが、華やかな印象を与える。

POINT

日本の四季から感じ取られる造形的な美しさや、生活に息づく日本の伝統的な形や色、日本の風土に適した材料などをもとに表現しましょう。

日本は四季の変化による豊かな色彩に恵まれています。私たちは自然の美しさを楽しみ、その美しさを生活に取り入れて楽しむために、四季ごとで生活に使うものの材料として自然物を用いたり、自然物の形体を装飾に取り入れたりしてきました。そこには華やかな美しさと簡素な静けさが和の美意識として共存しているのが特徴と言えます。

日本の風土で育まれた美意識について考え、生活を彩るものをつくりましょう。

生徒作品

着物のアイデアスケッチ
[色鉛筆・水彩・紙/42×30cm]
着物の形に合わせて花々や手鞠を大胆に配置している。



漆絵梅文椀
[漆・木/高さ10.8×径12.8cm]1966
東京国立近代美術館蔵
松田権六[石川県・1896～1986]
梅の花の形を単純化し、繰り返し用いて装飾した。



夜空を華やかに彩る花火[山梨県]
菊や牡丹など花の形を表したものもある。



和傘
季節の風景に合わせた色を用い、美しくデザインしている。



和菓子 左から遠桜(春)、初螢(夏)、山路の菊(秋)、寒紅梅(冬)[幅各3～5cm、50g]
「遠桜」は遠くに見える桜の濃淡を、「初螢」は淡い光を放ち水辺を飛び交う螢を、「山路の菊」は白い菊花と一葉を、「寒紅梅」は寒さの中に咲く一輪の紅梅を、それぞれ表している。

食の場を彩ろう

日本では、食事の場面でも自然の美しさを味わう工夫をしてきました。笹の葉などを包装にするちまきや、螺鈿を施した箸は、材料として自然物を生かした例です。草花をデザインした食器も多く見られます。また、和菓子は食べ物自体に四季ごとの情景や花などを見立てており、視覚・味覚・嗅覚・触覚(手触りや食感)・聴覚(名前の響き)で楽しめる「五感の総合芸術」とも言われます。

季節を感じさせる和菓子や食器のデザインを考え、食の場を演出しましょう。

ちまき

ちまきはもち米や団子、くずなどを笹などの葉で巻いた食べ物である。自然物の色を生かし、笹の葉の豊かな香りも楽しめる。

撮影・与由弘志



生徒作品

和菓子のアイデアスケッチ「新しい命」
[色鉛筆・鉛筆・紙/15.5×19cm]
作者の言葉 花びらのみずみずしさを、朝露をイメージした寒天で表しました。



和菓子 上段左から、新しい命、新芽、水源、下段左から、新芽、雪うさぎ、つぼみ[幅各3.3～5.5cm]
生徒のアイデアスケッチをもとに、和菓子店がつくったもの。

生徒作品

和菓子のアイデアスケッチ「新芽」
[色鉛筆・鉛筆・紙/10×14cm]
作者の言葉 つぼみと新芽で、新しい生命を表しました。



色絵菊園向付
[陶土/各高さ4.8×幅17.8cm]江戸時代
福岡市美術館蔵 尾形乾山[1663～1743]
咲き誇る菊の花をかたどった小皿。



若狭塗の箸をつくる職人[福井県]



若狭塗の箸の装飾

箸は中国から渡り、生活に根づいた道具。福井県の若狭塗箸は、何層にも塗り重ねた漆の中に貝殻や卵の殻を埋め込み、表面が滑らかになるまで研ぎ出す螺鈿の技法を用い、美しい模様を浮かび上がらせる。



吉野龍田図屏風 [紙本金地着色・六曲一双/各176.8×415.6cm] 江戸時代 根津美術館蔵[東京都]

ともに奈良県にある桜の名所である吉野(右隻)と紅葉の名所である龍田川(左隻)の様子を華やかに描いた作品。部屋の仕切りと装飾を目的として置くことで、室内にいる人が春と秋の美しさを味わえる。



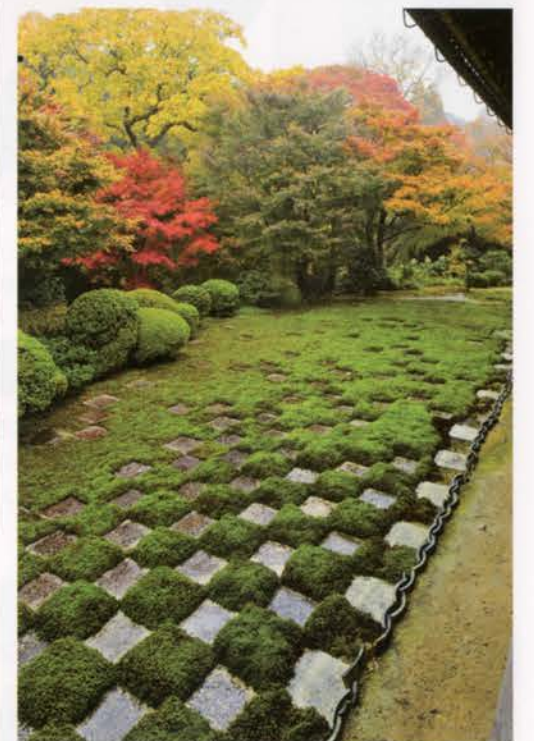
自然物を材料にして飾ろう

日本には自然物を材料にした装飾があります。常緑樹の松は、生命力や繁栄に結びつけて考えられる樹木です。正月には美しく飾られ、住空間を演出します。

自然の景観を演出して取り入れた庭園も、日本の美意識を代表するデザインの一つです。自然物を用いて住空間を演出してみましょう。



地域の人たちと一緒に
つくって学校内に
展示した正月飾り



東福寺方丈庭園 市松の庭[京都府]
敷石と苔とを交互に配置して市松模様を構成し、
美しいリズム感を演出している。



生徒作品

春の一枚

[葦・木・墨・糸・短冊・和紙・紙/51.5×26cm]

作者の言葉 掛け軸のようにして玄関を飾り、お客様をもてなします。ピンクや緑の和紙を使い、春の優しい雰囲気表現しました。



紙の色の組み合わせ
を考えよう。



全体図をイメージしながら
紙を貼り合わせていく。

季節感を演出する工芸品

床の間に飾る掛け軸は、季節感を演出する調度品として用いられています。間仕切りに使われる屏風や夏に涼む扇子なども、絵を描いて季節感を味わう調度品として使われます。日本の工芸品に見られる美意識について考え、表現しましょう。



生徒作品

[アクリル・扇面/27×44cm]

作者の言葉 背景を落ち着いた色のグラデーションにし、静けさの中に浮かぶ鮮やかな藤をイメージして描きました。



生徒作品

[アクリル・扇面/27×44cm]

夏の風物詩である風鈴が風に揺れる様子を、涼しい色づかいで描いている。

金魚玉図

[絹本着色・一幅/105.8×35.9cm]

明治時代後期

細見美術館蔵[京都府]

神坂雪佳[1866~1942]

表装をすだれに見立て、正面から描いた金魚と組み合わせている。夏の風物詩が描かれた作品を床の間などに飾ることで、その場にいる人に涼しさとユーモアを感じさせる。



待庵(国宝)16世紀後半 妙喜庵[京都府] 千利休[1522~91]

茶室に見る美意識

茶室は、茶の湯を通して人と人とが心を通わせる場で、極めて質素なつくりになっています。千利休が設計した茶室「待庵」は、わずかに二畳という狭い空間ですが、天井の竹や壁の藁などが自然に目に入るよう効果的に用いられ、心安らく空間となっています。

長次郎が制作した茶碗は、やわらかみのある形と落ちついた黒色の調和が特徴的です。

黒楽茶碗 銘 俊寛(重要文化財)

[陶土/高さ7.9×口径11.3cm]安土・桃山時代
三井記念美術館蔵[東京都] 長次郎[没年不詳]



情報を わかりやすく伝えよう

単純化や強調された形や色

私たちが情報を伝達する手段の一つに、ピクトグラムがあります。ピクトグラムは、伝えようとする意味を文字に代わって視覚的な図で表現したもので、視覚記号（サイン）の一つです。国際的な場や公共空間で使用され、言葉の違



非常口のピクトグラム 1987 大田華夫[愛知県・1939~]
日本で考案され、1987年に国際規格になり、各国で使われている。

POINT

瞬時に正確な情報を伝えるためには、どのような形や色を使えば効果的なのか考えましょう。



斜面

+



津波

→



学びのねらい

- ピクトグラムなどの伝達のデザインに関心を持つ。
- 伝えたい内容を多くの人に伝えることを考えて構想しよう。
- 伝わりやすさを考え、形や色の特徴を生かし効果的な表現方法を工夫しよう。
- 作品の洗練されたよさや美しさを感じ取り、伝達の観点から生活を豊かにする美術の働きを理解しよう。

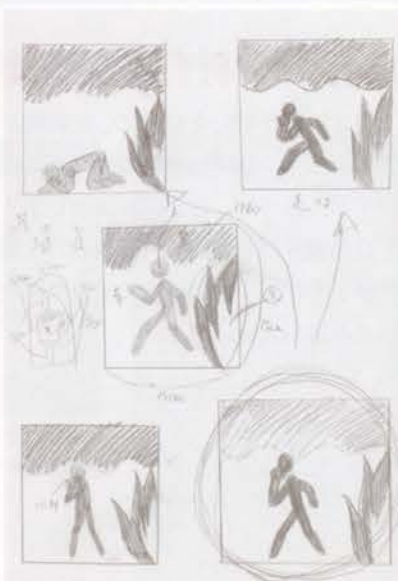
う外国の人々や文字の読めない子どもたちにも直感的に情報を伝えることができます。

ピクトグラムの特徴やサイン計画について知り、身近な場所で使うピクトグラムを考えましょう。

非常口の人型を参考に、 防災のピクトグラムをつくらう



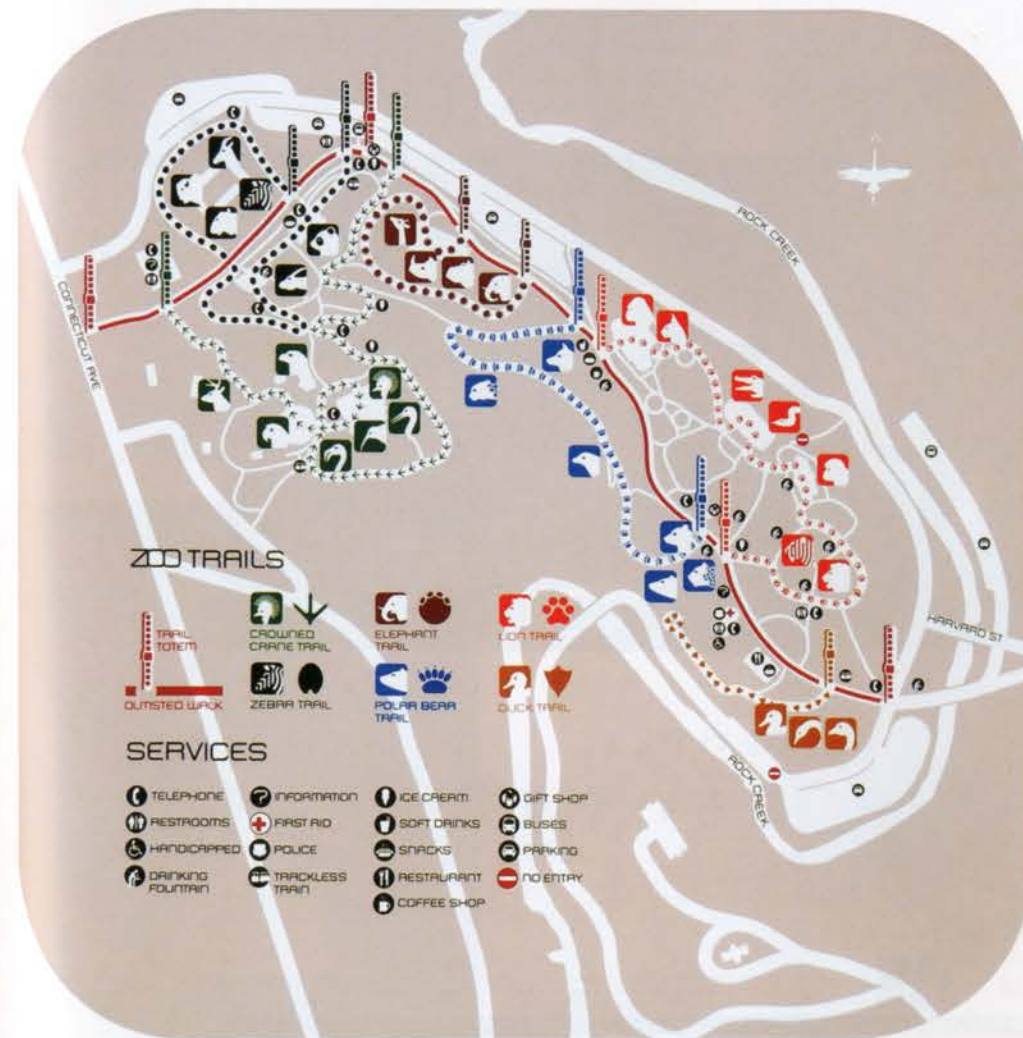
生徒作品
防災避難のピクトグラム
[アクリル・紙/15×15cm]



生徒作品
アイデアスケッチ
[鉛筆・紙/22.7×16cm]

サイン計画をしよう

ある特定の場所や地域に統一性のないサインがたくさんあると、利用する人は混乱してしまいます。どこに、どのようなピクトグラムなどのサインを整備するか、総合的に考える必要があります。学校内をリサーチし、多くの人に伝わるサイン計画をしましょう。



ワシントン国立動物園の地面に描かれたライオンの足跡。ライオンのいる場所までのサインになっている。



ワシントン国立動物園の案内地図と動物のピクトグラム 1977[アメリカ]
ランス・ワイマン[アメリカ・1937~]、ビル・キャンナン[アメリカ・1932~]

作者の言葉 動物はそれぞれ外見の特徴だけでなく、性質も違います。毎日動物を観察し多くのスケッチをすることによって、動物たちの特徴や性質をとらえることができました。(ランス・ワイマン)



生徒作品 音楽室・理科室・美術室のピクトグラム[水彩・紙/各10×10cm]
五角形の中に三角形を用いて、デザインの統一を図っている。



生徒作品 理科室・美術室のピクトグラム
[アクリル・紙/各13.7×13.7cm]
単色でモチーフを各2点に絞った統一がなされている。



生徒作品 アイデアスケッチ
[鉛筆・色鉛筆・紙/21×29.7cm]



校内のサイン計画をする時、校内をリサーチしたり、アイデアスケッチをもとに意見を出し合ったりしながら、多くの人に伝えるための構想を練ろう。

豊かなイメージで伝えよう

ポスターやブックカバーのデザイン

学びのねらい

- 身の回りのポスターや本の装丁などに関心を持とう。
- イメージを効果的に伝えるために、文字の配置や色、イラストレーションなどの組み合わせの構想を練ろう。
- さまざまな技法を組み合わせ、効果的に表現しよう。
- 身の回りのポスターや本の装丁、友だちの作品を観察し、それらと与える印象について考えよう。



おもしろい算
[新聞広告]2012
ACジャパン
算数の四則をアイデアに、おもしろいや助け合いを提案している。

困っていたり、悩んでいた、心の中は見えにくけれど、
たす、ひく、かける、わる。
小さなやさしきで、きっと気持ちは通じ合う。
それは人を笑顔にする算数、「おもしろい算」。
一人ひとりの心づかいが、大きな答えになるはずだ。

やさしいでしょ、
おもしろい算。

民間の広告ネットワーク



北海道事務局 〒060-8545 札幌市中央区大通西5-11-1(電通北海道) TEL:011(2)14-5115 ●東北事務局 〒980-0022 仙台市青葉区五橋1-2-29
TEL:022(2)211-1324 ●関東事務局 〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-17(電通銀座) TEL:03(357)9195 ●関西事務局
〒690-0006 北摂府中地区1-18-8 TEL:06(2)283-8851 ●中部事務局 〒460-0004 大田区田原町1-1-9 TEL:056(44)2466
●中国事務局 〒730-8677 広島市中区上本町7-1(中国新聞ビル) TEL:082(2)90-2215 ●九州事務局 〒810-0042 福岡市中央区東1-16-10
TEL:092(7)9-2554 ●沖縄事務局 〒900-0015 那覇市久茂地3-21-1(電通沖縄) TEL:098(882)4144
●本部の中心に、ACジャパンのウェブサイトも設けられています。03(5)2009881 あるいは事務局またはホームページへ、http://www.ac-jp.jp

ACジャパン(旧称:公共広告機構)は、全国の1000に及ぶ企業が参加する民間の団体です。2011年、私達の活動の公益性が認められて「公益社団法人」になりました。

メッセージの伝え方には、さまざまな方法があります。ポスターや本の装丁などは、行事や作品の概要を伝えるとともに、見る人に何かを考えるようなうながしたり、作品

のイメージを膨らませたりする働きがあります。豊かに情報を伝えるための、イラストレーションや写真、文字、色などを効果的に組み合わせた表現に取り組みましょう。



生徒作品
合唱祭のポスター
[コラージュ・ペン・水彩・紙/54x38.2cm]
作者の言葉 一人一人の声が重なり集まることで「合唱」になるというイメージで、この絵を仕上げました。音符を描いていくたびに音が広がっていくように楽しかったです。



生徒作品
自然保護のポスター
[アクリル・紙/51.6x36.3cm]

POINT

伝えたいことが明確になるように、レイアウトや配色、キャッチコピーなどを工夫してポスターを制作しましょう。



HIROSHIMA APPEALS「鳥たち」[103x72.8cm]1984
葉津潔[東京都・1929~2009]

スペインの音楽家の「鳥たちの鳴くのがPEACE! PEACE!と聞こえてくる」という言葉に発想を得た作品。何かを叫んでいるような17羽の鳥が、パステルで明るく、力強く描かれている。

本のイメージを伝えよう

本の表紙は、作品のイメージを豊かに伝え、読む楽しみを増してくれます。また、同じ本でも表紙によって受ける印象が異なります。表現方法を選び、作品のイメージを豊かに伝える表紙をつくりましょう。



「銀河鉄道の夜」のイラストレーション
左:[18.9x26.5cm]清川あさみ[兵庫県・1979~]、中央:[14.9x10.5cm]黒星紅白[神奈川県・1974~]、右:[22.4x15.5cm]春日部たすく[福島県・1903~85]

生徒作品

ブックカバーのデザイン

[ペン・トレーシングペーパー・紙/18.9x28.7cm(表紙全体のサイズ)]
手描きのイラストの上に、部分的に丸くくり抜いたトレーシングペーパーをかけ、作品の世界観を表した。



左はビーズを材料に、宇宙や列車を幻想的に表している。中央は主人公を大きく配置している。右は線画で描き、黄色をアクセントとして効果的に配色している。

生徒作品 ブックカバーのデザイン
[コラージュ・ペン・和紙・紙/19.2x44cm(袖部分まで含む)]

作者の言葉 題名のデザインは新聞から切り取った文字を使い、不気味さを表しました。ストーリーの中で印象に残った「穴」を強調させるため、地面の色を薄くしました。



本のイメージを宣伝するPOPをつくろう

POPは陳列棚などに設置する宣伝です。イラストレーションや文字を効果的に使って、多くの人の目をひくPOPをつくり、図書館などで展示しましょう。

生徒作品 図書館の本を紹介したPOP[ペン・紙・ラミネート/各13x18.5cm]



登場人物の印象が伝わるイラスト、タイトルやキーワードの強調などで、作品の内容をわかりやすく伝えた。

POPで紹介した作品「うそそう」(篇中恵)、「モモ」(ミハヤエル・エンデ作、大島かおり訳)、「小学五年生」(重松清)

やさしさのデザイン

使う人の気持ちを考えよう

学びのねらい

- 身近にあるものの使いやすさや安全性を考え、デザインが持つ役割について関心を持とう。
- 使う人の気持ち、使いやすさ、美しさなどを考え、つくりたいものの構想を練ろう。
- 制作の意図に適した材料や用具、方法を工夫しよう。
- 問題解決のためのアイデアや使いやすさの工夫を感じ取ろう。

デザインは、いろいろな立場の人が安全に利用しやすいように考案される場合もあります。年齢や障がいの有無などにかかわらず、だれもが利用可能なようにデザインされたものがあり、それらは「ユニバーサルデザイン」と呼ばれています。

機能性や安全性などの観点から、身の回りのもののデザインを見直し、工夫された点を考えましょう。そして、身近なものをより安全に使いやすくするデザインを提案しましょう。



ほ乳瓶[プラスチック・合成ゴム/高さ22cm]
赤ちゃんが顔を覆かせなくてもよい角度に設計されている。



フォーク

[ステンレス/長さ各18~18.3cm]
ふっくらとしたグリップで、力が弱い人でも持ちやすい。左右が曲がったタイプは、手首の関節が曲がりにくい人に配慮したものである。

ペットボトル 2001

[ペット樹脂・ポリエチレン/高さ23cm]
ロス・ラヴグローブ[イギリス・1958~]
水の流動性をイメージさせる左右非対称のデザイン。表面の滑らかなラインが手になじむ。



ハンドルの部分が握りやすい傘
ハンドルの部分が握りやすく、またフック状になっているので、いろいろな場所に掛けられる。



マウス型のカッター 2005
[ABS樹脂・ファインセラミックス/長さ12cm] 中川聡[茨城県・1953~]
カッターの刃に触れにくく、安全性も高い。



シャンプーとリンスの容器
見た目が似ているが、シャンプーの容器には凹凸があり、触れるだけでリンスと区別できる。



波形の手すり

波形の手すりは、人を安全にやさしく支えるための工夫である。まっすぐな手すりとは比べて握った時の手首の角度が自然なため、握りやすく、滑りにくい設計になっている。

扇風機

[ABS樹脂/
55.2x35.6x14.7cm]
ジェームズ・ダイソン
[イギリス・1947~]
高速回転する羽根をなくし、安全に配慮したデザインである。

使いやすいデザインを考えよう

使いやすいデザインを考える時には、身の回りにあるデザインされたものをよく観察しましょう。機能性や安全性、触り心地など、さまざまな観点から調べ、その特徴や工夫されている点などをとらえましょう。

製品の改善点と考えたら、アイデアスケッチを描き、模型を制作するなどして、自分なりの構想を深めましょう。

POINT

身の回りのデザインについて、さまざまな視点から分析し、使いやすい形や色について考えましょう。



《分析》マグネット
・ユニバーサルデザインになっていて、上の部分がつまめて片側が浮くので通常の半分のカマを外せる。
・磁力も強く、A4用紙が14枚もとめられる。
・片側だけが浮くので、メモをはさむのにも便利。
・マグネット自体もやわらかい樹脂でできていて、子どもや高齢者が使っても安全!

《分析》クリップ
・ユニバーサルデザインで、開いた状態でロックできる!
・手をはさんでケガをすることもなく、紙をはさみこねることもなくなる。
・外側にリングがついていて、フリさげることができ、使わない時は折りたためる。
・書類の置き場所に困った時はとても便利!

(感想)
アメリカを使わずに済むだけでなく、穴をあけなくていいので紙もキレイに保てる。子どもも高齢者も使いやすいと思った。

生徒作品
リサーチレポート[ペン・鉛筆・紙/25x17cm]

簡単に取り外しができるものを調べて、材料や形の工夫をレポートにまとめた。



生徒作品

手と口にフィットするカップ
[彩色・加工粘土/6x14.5x8.4cm]
取っ手、本体のどちらを持って、指にかかりやすい。飲み口を変形させてあり、水などを飲む時にこぼれにくい。



生徒作品

アイデアスケッチ
[彩色・ペン・鉛筆・紙/18.2x18.2cm]



生徒作品

アイデアスケッチ
[彩色・鉛筆・紙/30x30cm]

生徒作品

春雨スープ用スプーン
[彩色・加工粘土・針金・ニス/幅5cm・長さ20cm]
作者の言葉 春雨とスープを一緒にすくうことができるように、受け口の先をぎざぎざにしました。

座ることから考える

行為に合わせてデザインする

いすにはさまざまな形や大きさ、材質などの特徴を備えたものがあります。それは勉強する時とくつろぐ時とでは座り方が違うように、使う目的に応じてデザインされているからです。ここで取り上げるいすや身の回りのいすが、

アーロンチェア
[エラストメリックポリエステル・アルミニウムなど/
高さ84.5~113cm]
ドン・チャドウィック
[アメリカ・1936~]
ビル・スタンプ
[アメリカ・1936~2006]
机に向かって作業する時、さまざまな姿勢に対応して、背もたれの角度や腕の高さなどが自由に調整できる。



学びのねらい
 ① 使う人や場面によって異なる、使うもののデザインの働きについて関心を持つ。
 ② 身の回りの使うもののデザインの、使う人や場面とのかかわりに注目し、工夫された点について調べよう。

だれが、どのような座り方をすると想定したデザインなのか考えてみましょう。そしていすだけでなく使うものを、使う人や場面のことを考えてデザインをする時の参考にしましょう。



ウルムツール
[木/44x39.5x29.5cm]1954
マックス・ビル[スイス・1908~94]
腰かけるだけでなく、並べてベンチにしたり、横向きに積んで荷物を置いたり、シンプルな構造だからこそ多様な使い方ができる。



POINT

普段過ごす家やまちの中でもさまざまないすを見かけます。だれが、どういう使い方をすると想定してデザインされているか、身近な例を調べたり工夫された点を考えたりしましょう。



トーネットロッキングチェア
[ブナ・藤/98x54x102cm]1860
ミヒャエル・トーネット
[オーストリア・1796~1871]
当時発明された曲木の技術が、いすを揺らす脚の形に生かされている。丈夫な曲木を使うことで、シンプルな構造で軽いいすになっている。

ポニー[ウレタンフォーム・ストレッチファブリック/
99x66x106cm]
エーロ・アールニオ
[フィンランド・1932~]
ぬいぐるみのような愛着を持てる丸い形にするために、曲面に加工しやすい材料を使い、伸縮性のある布を表面に貼っている。



いすに生かした曲木技術

19世紀の初めに、家具職人ミヒャエル・トーネットが木を蒸気で曲げて加工する、曲木技術をいすづくりに導入しました。曲木は木の繊維を切らずに加工できるので、丈夫さが失われず、また、座面や脚など部品ごとにつくって組み立てることができます。そのため、部品を効率的に梱包して大量に輸送し、組み立てるとい



生産方法が可能になりました。

輸送用に分解し梱包した36脚分の曲木いす
1㎡に36脚分の部品を納めることができる。



Flower
[合成皮革など/40x120x132.5cm]2001
SANAA
(妹島和世[茨城県・1956~]、西沢立衛[神奈川県・1966~])
せんだいメディアテーク[宮城県]
花びらのように三方向に伸びた形は、知らない人どうしが一つのベンチに気兼ねなく座れ、また二人で向かい合って座ることもできるようになっている。人が集まる公共空間に合わせてデザインされている。

参照 使う人や場面を考えたデザインについてはP.42~43「やさしさのデザイン」も見てみよう。



手づくりを 味わう喜び

材料の特性を生かしてつくり

私たちは、いろいろな材料でつくられたものを使いながら生活しています。

木や金属、布など、さまざまな材料で、暮らしに役立つものや、その材料ならではの楽しい作品をつくりましょう。

それぞれの材料に合った加工の技術などを学びながら、生活の中での手づくりの作品のよさも考えましょう。毎日の暮らしがより豊かになります。

学びのねらい

- ☑ 材料の特性を生かしてつくられた身の回りにあるもののよさや美しさに関心を持つ。
- !! 使う場面を思い描いたり、材料の特性を考えたりしながら、発想を広げ構想を練ろう。
- 🔗 材料や道具、伝統的な技法などの特性を生かして表現しよう。
- 🎯 それぞれの作品に込めた思いや工夫を感じ取ろう。

POINT

使用する目的を考えて材料を選び、機能に合った造形的に美しい作品の構想を練りましょう。



生徒作品

木のおもちゃ
[木・竹ひこ・ワックス/
長さ最大15cm]

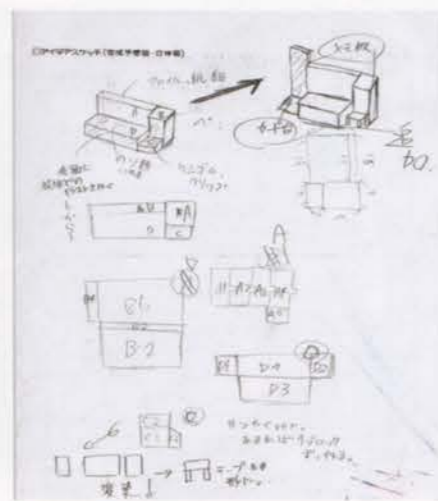
生徒作品

春を告げる鳥の木箱
[木・枝/10.5×18.5×10.5cm]

一枚の板から、毎日使えるものをつくり



制作の途中で、使いたいペンなどの文房具を実際に入れてみて、使いやすいかどうか確かめる。



生徒作品

アイデアスケッチ [鉛筆・紙/29.7×21cm]



生徒作品

文具立て [木・コルク・ワックス/22×27×10cm]

参照

木工の技法についてはP.55「木でつくる」も見てみよう。

手になじむ革細工をつくり

革は、使い込むほどに艶や風合いが出てきてしっくりと手になじんでくるのが特徴です。温かみのある質感を生かして表現しましょう。

生徒作品
ペンケース
[革/27.6×8.5cm]



- 1 刻印を垂直に立て、均等な深さになるように木づちでたたく。
- 2 模様の大い刻印から小さい刻印の順に打ち、すき間を埋める。

金属の材質感を生かそう

金属は、たたくと延びるという性質があります。比較的やわらかい銅やアルミニウムなどを打つ、切る、曲げる、接着するなどし、金属ならではの質感を生かした作品をつくりましょう。



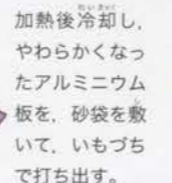
生徒作品 ベントレー [アルミニウム・銅・真鍮/長さ20cm]



生徒作品 キーホルダー [真鍮・錫/長さ最大6.2cm]



ベントレーの制作



キーホルダーの制作

参照 金属の技法についてはP.55「金属でつくる」も見てみよう。

型を使って染めよう

型紙を使って、自分だけの布を染めましょう。

型の特性を生かした、シャープな形や、連続模様を工夫しましょう。



生徒作品 ユニコーン [型染め・藍・布/99×34cm]

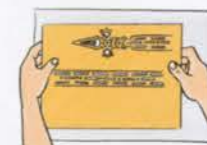


生徒作品

鎖の型紙
[紙・紗/
18.5×20.2cm]



1 紙に図柄を描き、カッターナイフで切り抜く。



2 染める布の大きさや形に合わせて、型紙の配置を考える。



3 鎖の型紙を丈夫にするため、カシュー塗料で紗(薄い網)を張る。



4 模様をきれいに連続させるため型紙を折り返し、布の染めないところ(模様)に糊を置く。

受けつがれてきた伝統工芸

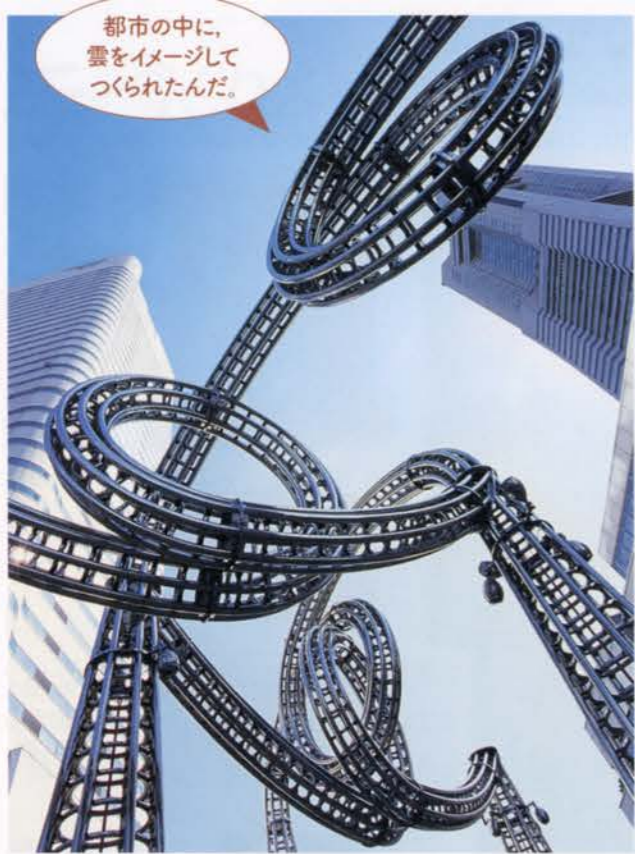
日本各地には、それぞれの気候風土などに合った、手づくりの工芸品が受けつがれています。それらの多くは、その土地で採取できる自然の材料からつくられています。

北海道のアイヌ民族の代表的な衣装アットゥシは、北海道に多いオヒョウという木の樹皮の繊維からつくられます。

身近な工芸品、古くから郷土で受けつがれてきた工芸品を、材料や技法の観点から見直しましょう。思いがけない発見があるかもしれません。

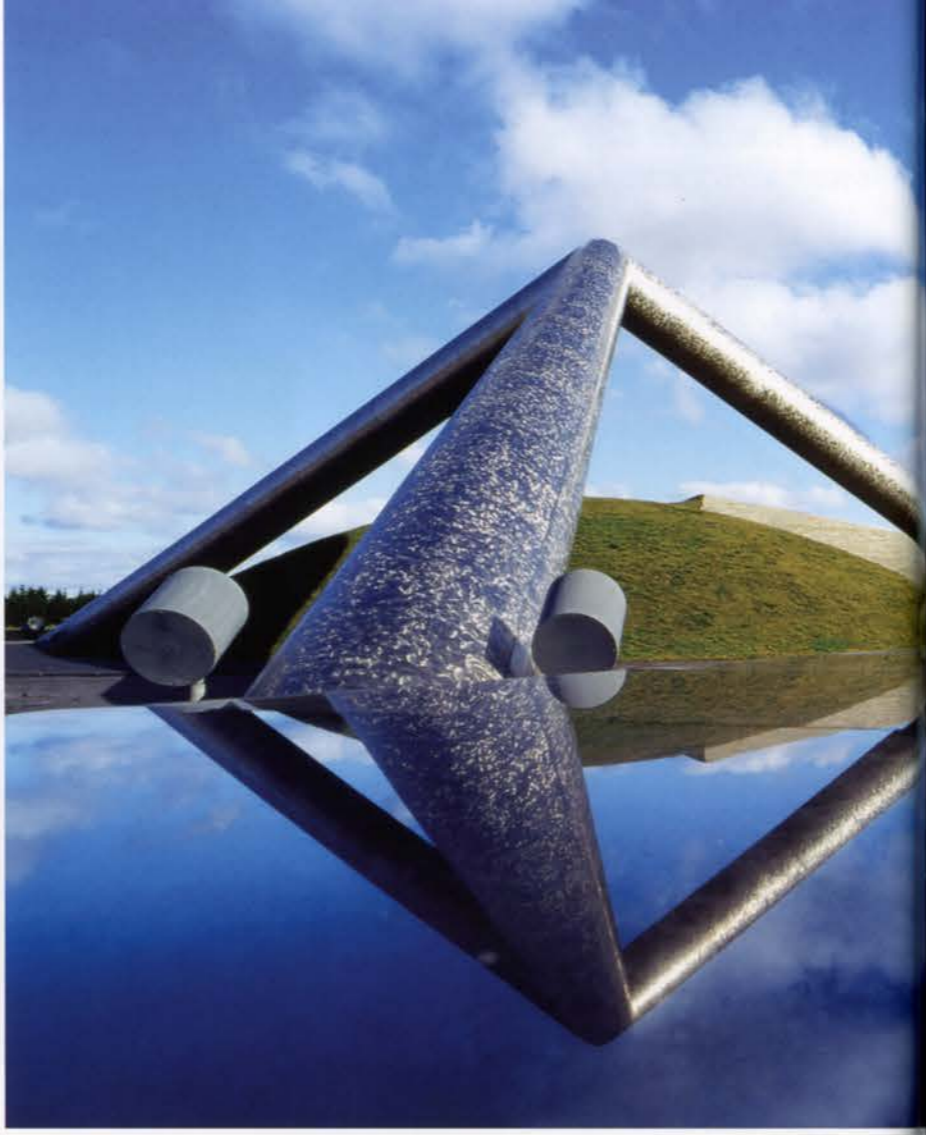


アットゥシ(背面)
[オヒョウの樹皮/
丈120.2cm、裾67.8cm]
アイヌ文化振興・
研究推進機構蔵[北海道]



都市の中に、雲をイメージしてつくられたんだ。

モクモクワクワヨコハマヨーヨー [ステンレススチール/高さ約17m] 1994 横浜みなとみらい21 [神奈川県] 最上壽之 [神奈川県・1936~]



水面にも空が映って、まるで空に囲まれているみたい。

テトラマウンド [ステンレススチール/高さ13m] 2005 モエレ沼公園 [北海道] イサム・ノグチ [アメリカ・1904~88] ステンレスの柱の根元から水が湧き、日差しを受けて水面が輝く。

まちを彩るパブリックアート

まちを歩いていると不思議な形をした作品や壁に描かれた作品、光を使った空間などのパブリックアートを見つけることができます。パブリックアートには、その場所や建物と作品が発するメッセージが結びついたものや、まちに潤いを与えるものなどがあります。それらは、生活空間の中に自然に溶け込んでいることに気がきます。私たちの日常を彩るパブリックアートに目を向けて、まちを歩いてみましょう。



マイクロにすむ [ブロンズ/高さ2.7m] さいたま新都心ふれあいモール [埼玉県] 共生空間Psi 5名の日本人による共生空間Psiは、小学生と共同で作品をつくった。



車止め(ベンチ) [繊維強化プラスチック/1.5x3x0.6m] ファーレ立川 [東京都] ヴィト・アコンチ [アメリカ・1940~]

生徒作品
清五郎開拓八人衆 [流木・藁・竹・合板・針金/高さ約2m] 共同制作 新潟県スポーツ公園



土地を拓くために働いた様子が伝わってくるね。中学生の作品だよ。



アイランド・レイク [894㎡] 2002 御池通 [京都府] ビオトル・コヴァルスキー [ポーランド・1927~2004]



太陽の塔 [コンクリートなど/高さ65m] 1970 吹田市万博公園 [大阪府] 岡本太郎 [神奈川県・1911~96]



地球・一個の球体のために [石・金属/高さ3.5m] 1993 広島空港 岡本敦生 [広島県・1951~]

子どもが電車ごっこをしながら、九州を旅しているようだね。

緑結び七福童子 [ブロンズ/17x120x86cm] 2011 JR博多シティ屋上 [福岡県] 飯内佐斗司 [大阪府・1953~]



日本美術の展開と世界との交流

日本の美術は、縄文時代から今日に至る長い歴史の中で、諸外国の美術や文化を積極的に取り入れながら、日本の風土や伝統にふさわしい独自の文化として形成されてきたものです。今日私たちの目に触れる形で残されている美術品の数々は、その歴史の証人と言ってよいでしょう。日本の美術を、時代背景や諸外国との交流などに目を向けながら鑑賞し、さまざまな時代の特色や魅力を味わいましょう。



1 ハート形土偶(重要文化財)
縄文時代後期 群馬県出土
東京国立博物館寄託

2 袈裟褌文銅鐸(国宝)
前2～前1世紀
伝香川県出土
東京国立博物館蔵

3 弾琴男子像(重要文化財)
古墳時代後期
相川考古館蔵[群馬県]



4 釈迦三尊像(国宝) 623
法隆寺金堂蔵[奈良県]
止利仏師



5 鳥毛立女屏風(国宝)
第二編 8世紀
正倉院蔵[奈良県]



7 阿弥陀如来坐像(国宝) 1053
平等院蔵[京都府]
定朝

シルクロードによる交流
奈良時代には、大陸各地の宝物がシルクロードを経由して奈良の都に集まり、正倉院に納められました。

6 高松塚古墳
西壁女子群像(国宝)
7世紀末～8世紀初頭
[奈良県]



8 源氏物語絵巻 鈴虫二(国宝) 12世紀 五島美術館蔵[東京都]



9 金剛力士像
阿形像(国宝) 1203
東大寺蔵[奈良県]
運慶、快慶ら



10 東求堂同仁齋(国宝) 1486
慈照寺[京都府]



11 破墨山水図(国宝・部分) 1495
東京国立博物館蔵
雪舟等楊



12 風神雷神図屏風(国宝)
17世紀前半
建仁寺蔵[京都府]
京都国立博物館寄託
依屋宗達

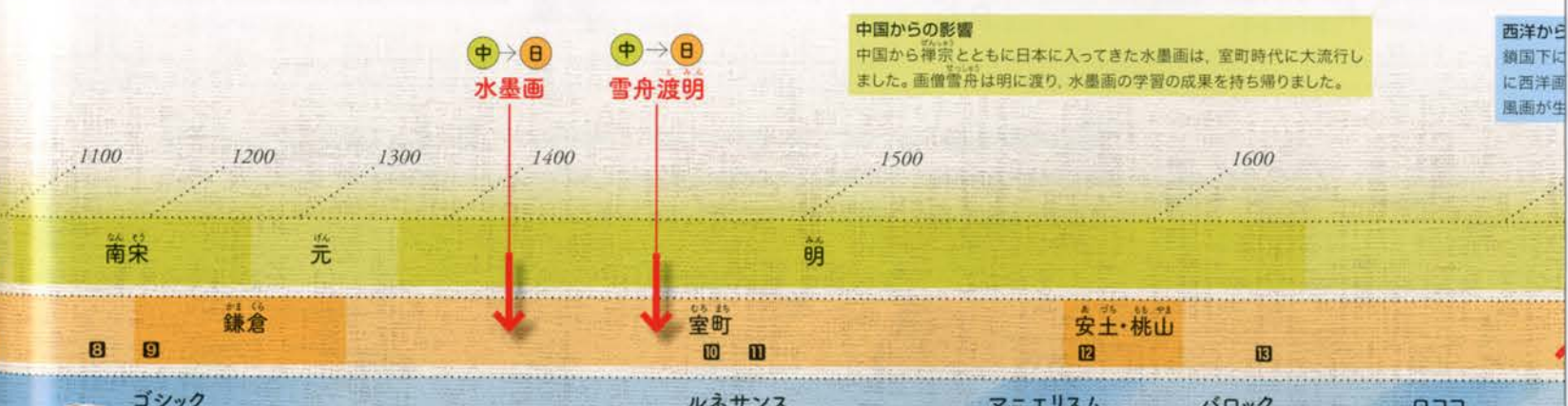


13 牡丹孔雀図
(重要文化財) 1771
相国寺承天閣美術館蔵
[京都府]
円山応挙

中国、朝鮮半島からの影響
弥生時代に金属器、6世紀には仏教が伝わるなど、大陸の文化が早い時期から日本美術の展開に影響を与えました。

仏像
正倉院宝物

中国からの影響
中国から禅宗とともに日本に入ってきた水墨画は、室町時代に大流行しました。画僧雪舟は明に渡り、水墨画の学習の成果を持ち帰りました。



14 ホルエムヘブとホル神
前14世紀ころ [エジプト]



15 サモトラケのニケ
前190ころ
ルーヴル美術館蔵[フランス]



16 アウグストゥス立像
14～29ころ
バチカン美術館蔵



17 「キリストの変容」モザイク
(部分) 549
サンタポリナレ・イン・クラッ
セ聖堂蔵[イタリア]



18 美しき絵ガラスの聖母
1180ころ
シャルトル大聖堂蔵[フランス]



19 ダヴィデ 1501～04
アカデミア美術館蔵[イタリア]
ミケランジェロ・ブオナルローティ



20 モナ・リザ 1503～06ころ
ルーヴル美術館蔵
レオナルド・ダ・ヴィンチ



21 キリスト降架 1611～14
アントワープ聖母マリア大聖堂蔵
[ベルギー]
ピーテル・パウル・ルーベンス



22 サン・ベルナル峠を越える
ナポレオン・ボナパルト 1801
マルメゾン美術館蔵[フランス]
ジャック＝ルイ・ダヴィッド



23 ラ・ジャポネーズ 1876
ボストン美術館蔵[アメリカ]
クロード・モネ

西洋から
鎖国下に
に西洋画
風画が生

西
蘭
ロ
オ

色について 理解を深めよう

配色

配色とは、色の組み合わせを考え、配置、構成することです。配色によって、穏やかな感じや刺激的な感じなど私たちの感覚に訴える効果があります。



さまざまな色のライトに照らされたスケートリンク

◆色相による配色

色相環は、色相どうしの関係を考える時に役立ちます。色立体は、色相ごとの明度や彩度を考える時に役立ちます。



色立体



色相環

同一色相による配色



ファッションモデルの衣装
同一色相による配色は、融合的でまともやすいが、単調になりやすいので、明度、彩度の変化を考える。



類似色相による配色



生徒作品

森林公園の果樹園 [アクリル・紙/38×54cm]
色相環の上で、近い位置関係にある色の配色。似ている色による組み合わせ。一般に、穏やかで落ち着いた感じになる。



対照色相による配色



鉄道の車両

色相環の上で、間隔(色相差)が大きい色どうしの配色。相互に引き立てて強く刺激的な感じになる。



補色色相による配色



クリスマスプレゼントの包装
色相環の上で真向かいに位置する、もっとも対照的な色どうしの配色。補色の組み合わせは、互いの色を引き立たせ刺激的な感じになる。



◆色の面積と配置

同じ形、同じ色の組み合わせでも、色面の大きさや配置によって感じ方が変化します。

主調色 (ドミナントカラー)



画面の基調となり、全体の色の調子を支配している色を主調色という。配色計画では、まず表したい感じに基づいてこの主調色を決めるとよい。左右の図では主調色を入れ替えているのでイメージが異なって見える。

強調色 (アクセントカラー)



主調色などの一部に、それとは反対の性質の色を置くことで、全体の感じを引き締める効果がある。

セパレーション (分離の効果)



となり合っている色どうしが調和を欠いていたり、印象が弱い場合、その間に他の色(白、灰色、黒などが効果的)を入れて、分離の効果を図る。

日本の伝統色

色名には自然物から名づけられたものが多くあります。季節の移ろいや暮らしの中に見られる日本の伝統色を知り、日々の生活の中で意識してみましょう。

◆伝統的な色名の一例(15種)



青竹色の竹林



琥珀



牡丹



鶯



藤の花

◆工芸品に見る日本の伝統色

緋色に紅を足したような赤漆の器は、そのさえた色が印象的な作品です。

碧瑠璃杯は、アルカリ石灰ガラスであり、その透明感から瑠璃色がいっそう鮮やかに見えます。

浅葱麻地流水草木軒端模様帷子は、浅葱色の絹のつややかさが目をひく作品です。



赤漆の器

[漆器/全高13.7cm×径11.8cm]



碧瑠璃杯

[ガラス・銀/高さ11.2cm] 8世紀
正倉院蔵 [奈良県]



浅葱麻地流水草木軒端模様帷子

[丈171cm×裾60cm] 19世紀 東京国立博物館蔵